事務所／〒738-0015 廿日市市本町5番1号廿日市市商工保健会館4F TEL(0829)31-5490　FAX(0829)31-5491
E-Mail / office20@h-hrc.com　ホームページアドレス http ： //www.h-hrc.com

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

広島廿日市ロータリークラブ会報

―― 本年度会長方針 ――

「広いこころ 豊かなこころ」

NO. 367

例会日／毎週月曜日12:30～13:30　例会場／広島サンプラザ TEL(082)278-5000会長／梶田滋　幹事／久保田幸恵

第728回　2012 年 3 月 5 日

於：広島サンプラザ

会長時間

梶田　滋　会長

今月は識字率向上月間です。識字とは，文字を読み書きし理解する能力のことを言います。英語のリテラシー（Literacy）の日本語訳になります。また、識字率とは，社会の15歳以上の人口のなかで，（人生の最初に習得した言語）の読み書き能力のある人の割合を示します。

世界には、現在でも「字が読めない」「字が書けない」国民を多く擁する国があると聞きます。これに対し、日本の識字率は江戸時代から70％以上あったと言われています。庶民がかわら版を読んでいるのを見て、欧米人が植民地化するのをあきらめたということを聞いたことがあります。

では、日本では識字率向上は無関係でしょうか。「識字能力」のことを広く考えてみると、読み書きできる能力以外に、聴く能力、理解する能力、文章化する能力などがあると思います。また、人によってはリテラシー（識字）には計算能力も含まれるとも言っているようです。

自分自身を振り返って見た時、漢字が書けない、漢字をおかしな読み方をしてしまう、お釣りの計算が直ぐにできない、というようなことがあります。このことは、パソコンを利用していることが大きく影響していると思います。若い人は、私達以上にパソコン・携帯を利用しています。このことで日本人の「識字能力」は大きく低下していると思います。

今月は、「識字能力向上月間」と読み換え、自分のこととして受け止めないといけないと思った次第です。以上で会長時間といたします。

2011学年度米山奨学生　呉曉麗（ご･ぎょうれい）さんに3月分の奨学金を梶田会長から呉さんへお渡ししました。

幹事報告

①理事会

本日例会終了後13：40～　3階「末広の間」におきまして、定例理事役員会を開催します。ご関係の方は、ご参集ください。。

②インターシティ・ミーティング

3月11日（日）10：00～　広島国際会議場にて、グループ6・7合同インターシティ・ミーティングが開催されます。

ご出席の方に、プログラム等をボックスに配布しておりますので、よろしくお願いします。

卓　話

嚴島神社　禰宜　福田道憲様

福田様から、嚴島神社の今昔についてお話をいただきました。

戦後は、今のように「鹿」がいなくて、「松」が多かったので松茸がよく取れていたそうです。

今は、「鹿」がかじってほとんど取れなくなったとのことです。

最近は、嚴島神社での結婚式が多く、年間400組くらい式を受けておられるそうです。

1日に2組まで正月は受けていないそうです。

誕生日祝

今月お誕生日をお迎えの会員をご紹介をいたします。

松浦　光男会員　昭和21年3月11日　66歳
久保田幸恵会員　昭和23年3月6日
青木　秀行会員　昭和25年3月22日　62歳
中井　克洋会員　昭和37年3月21日　50歳

梶田会長から中井会員へ記念品を授与しました。

第729回　2012 年 3 月 12 日

於：広島サンプラザ

会長時間

中井克洋副会長より理事会報告

幹事報告

①RYLA準備委員会
本日、例会終了後13：40～　3階「はごろもの間」におきまして、ライラ準備委員会を開催します。ご関係の方はご参集ください。

②南港RC訪問　歌の練習
本日例会終了後、この会場にて　南港RC訪問のための歌の練習を行います。
ご参加をよろしくお願いします。

③次回例会
3/19（月）と3/26（月）の例会はありません。
次回は、3/30（金）18：30～幻霜庵（げんそうあん）におきまして、夜間例会となります。参加者に後日、地図をお送りしますので、よろしくお願いします。

結　婚　祝

有田　伸治	会員	記念日	3月28日
有田　晴好	会員	記念日	3月12日
中井　克洋	会員	記念日	3月21日
青木　秀行	会員	記念日	3月22日
沖西　誠想	会員	記念日	3月 1日
上杉　昌幸	会員	記念日	3月21日
近藤　英昭	会員	記念日	3月28日
髙尾　昌二	会員	記念日	3月 2日
澤井　　誠	会員	記念日	3月16日
二村　一弘	会員	記念日	3月14日

おめでとうございます。

卓　　話

『赤い鳥』の先駆性
～鈴木三重吉生誕130年を迎えて～

鈴木三重吉　赤い鳥の会
会長　長崎　昭憲　　様

明治15（1882）年広島市で生まれた児童文学者鈴木三重吉は、1918（大正7）年雑誌「赤い鳥」を創刊し、日本最初の童謡・童話を創作した。「赤い鳥」は文学・美術・音楽などで先駆的役割を果たし、日本の教育にも大きく貢献した。

その「赤い鳥」に科学読み物が掲載されていたことはあまり知られていない。<少年少女科学>と称し140編余りの短編科学読み物が掲載された。筆者も内容も様々だが、三重吉の文章を感じさせる。三重吉は自然現象や動植物の生態を、実感的描写で、科学の世界に読み手を誘い入れた。

物理学者で北海道大学教授だった中谷宇吉郎の随筆選集（朝日新聞社刊）には、「三重吉氏は『赤い鳥』で単に文芸方面の仕事だけ残したのではなくてあの中には、毎月一編ずつ児童向きの科学教育の文章がのっていたのである。それは天文・物理・地球物理、化学・工学・動物学・植物学・医学などの広い

範囲にわたっていて、当時の新進の若い科学の研究家たちに依頼して書いてもらったものである。それに三重吉が筆を入れて、文章の体裁をととのえたものであった。」とある。中谷はその先駆性を称賛した。

三重吉は今から89年前の1923（大正12）年9月の関東大震災に際しても「赤い鳥」同年11月号に「大震火災記」を書き、その惨状を伝えた。子供向けにやさしく記載され、震災の様子が手に取るように分かる。通信手段が断たれ、復興に際し諸外国から援助があった等、今回の東日本大震災の状況と変わらない。さらに同じ11月号に北大教授の内田亨の「地震の話」を載せ、地震発生のメカニズムを解説し、自然に出来た固い地層ほど安全で、海岸の埋め立て地のような人工的な土地は一番危険と警鐘している。「赤い鳥」昭和7年1月号にも「原子の話」も載せ、原子の威力にも言及し卓越した先見性が見られた。

スマイルボックス

★山根　達則さん	★久保田幸恵さん
★永井　勝康さん	★河内　正晴さん
★渡邊　英晶さん	★上杉　昌幸さん
★梶田　　滋さん	★髙尾　昌二さん
★松浦　光男さん	★吉永　孝正さん
★近藤　英昭さん	

活動報告

3月11日に行われたインターシティ・ミーティングで永井会員が次年度ガバナー補佐として挨拶をされました。

ゆうほRCC　2012　3月定例会　報告書

平成24年3月16日（金）　19:30～
サンリブフードコート内　オアシス

<出席者>
・廿日市ロータリークラブ
・ゆうほ　　森田、長、渡辺、稲田、船木

1. ゆうほから

<パトロール＆環境保全>
日時：2月17日（金）　18：00～
場所：ビッグ～ローソン～ダイソー～八幡交番～サンリブ～フタバ図書 など
参加：廿日市ロータリー　　ゆうほ　：森田

～気づき～
天候も悪く、参加者もひとりの為、途中から車でパトロールした。
サンリブゲームコーナーでは親子連れが多かった。
特に気になる子どもはいなかった。

<パトロール＆環境保全>
日時：3月16日（金）　18：00～
場所：ビッグ～ローソン～ダイソー～八幡交番～サンリブ～フタバ図書 など
参加：廿日市ロータリー　ゆうほ：森田、長、渡辺、西川

～気づき～
サンリブゲームコーナーは、警察の指導が入り、レイトがすっきりした。
フタバ図書では小学生にゲーム機を壊される被害があった。

4月 環境保全	4／20（金） 18:00～	集合:ザ･ビッグ五日市店 たこ焼き店前、名札持参 防犯ベストあり
4月 定例会	4／20（金） 19:30～	場所：八幡公民館。
5月 環境保全	5／18（金） 18:00～	集合:ザ･ビッグ五日市店 たこ焼き店前、名札持参 防犯ベストあり

<薬師縁日走ろうかいについて>
日時：2月11日（祝）　9：30～
集合時間：8：00
豚汁とぜんざいをふるまいました。

参加：植村、渡辺、森田、住田、笠井、長、船木
　小田さんと仲間

～気づき～
豚汁とぜんざいをそれぞれ一杯づつということにしていたので、おかわりのたびに新しいおわんを使用することになった。
途中から整理券が配られることになり、事前の打ち合わせになく、少しバタバタした。

＜RCC地区大会＞
日時：2月11日（祝）　10：30～
場所：グランラセーレ東広島
参加：稲田、西川
～気づき～
RCC会長の発表の打ち合わせをしたにもかかわらず、時間の関係で、あまり意見交換をする機会がなかった。

＜防犯教室＞
アマノリハビリテーション病院内スマイルキッズ
日時：2月15日（水）　1：00～
内容：紙芝居
参加：植村、森田、住田、笠井、長、西川

～気づき～
対象者が0歳から3歳の子どもたちで、紙芝居の声がするほうに向くので、紙芝居のそばで読んだほうが良かった。

＜ふれあい隊決起大会について＞
日時：2月19日（日）13：00～16：00
　（受付12：30～）
内容：大型紙芝居「いかのおすしでおうちにかえろう」
寸劇　「あなたもねらわれていますよ」

出演時間：13：50～14：25
集合時間：12：00～　八幡小学校体育館
参加：植村、森田、住田、笠井、長、稲田、船木
PTA：小西、吉本、武田
～気づき～
地域のひとに初めて大型紙芝居を披露した。PTAの方々にも参加していただいて、好評でした。

＜防犯講習会＞
日時：3月3日（土）13：30～15：30
高齢者向け防犯講習会　老人憩いの家「倉重荘」
参加：植村、森田、住田、笠井、長、西川、稲田、船木

～気づき～
出席者は30名くらいで、会場もあまり広くなかったので、皆さんの反応が、身近に感じられとても良かったと思います。

2. 廿日市ロータリークラブから

3. その他
6月、7月と被害防止教室の依頼がきているが、メンバーの仕事の状況が変わる可能性があるため、返事は保留。

4. 次回は

4月 環境保全	4／20（金） 18:00～	集合:ザ･ビッグ五日市店 たこ焼き店前、名札持参 防犯ベストあり
4月 定例会	4／20（金） 19:30～	場所:八幡公民館
5月 環境保全	5／18（金） 18:00～	集合:ザ･ビッグ五日市店 たこ焼き店前、名札持参 防犯ベストあり

ロータリーひとくちメモ⑲

インターアクト（Interact）

インターアクトは、「インター」はインターナショナル〈国際的〉から、「アクト」はアクション〈行動〉から採られた合成語です。
「新世代のためのロータリー・プログラム」の一つである、インターアクト・クラブ（IAC）は、14～18歳の大学入学前の男女双方を会員に、地域社会、あるいは学校のいずれかを基盤として結成することができ、毎年少なくとも二つの大きな計画を実行しなければなりません。
この内の一つは、そのクラブが基盤にしている学校あるいは地域社会に奉仕するもので、もう一つは、国際理解を深めるためのものということになっています。
基本的には、インターアクト・クラブは、ロータリー・クラブがスポンサーとなって作る高校生のクラブであり、その目的はその学校および地域社会において、ロータリーの理想に基づいて奉仕活動を行い、また、国際理解の推進に努める青少年を援助することであります。
原則として、インターアクト・クラブは他の団体の趣旨のいかんにかかわりなく、他の団体に加盟または合併してはならないことになっています。

♥ 心に作用する逸品のコーナー ♥

『古いサンバのレコードを聴いて』

紹介会員：藤岡　哲也

アルゼンチンのタンゴやアメリカのジャズのように、その国を代表する様な音楽を挙げるとすれば、ブラジルではサンバです。サンバの元祖は、アフリカから送り込まれた黒人奴隷の人々の音楽で、打楽器を中心とした原始的な音楽でした。そのサンバが白人の人々にも踊られるようになったのは、1922年頃でした。この頃のサンバは、シンコペーション（リズムを飛びこえたアクセント）の多い野性的なサンバのリズムと単純なメロディの繰り返しでした。
しかし、白人にも理解しやすいリズムパターンに整理された歌詞がつけられ、サンバのポピュラーソングが生まれ始めました。（曲はブラジル、スペインの姫君等）そして、世界のダンスバンドはこぞってサンバをレパートリーに取り入れ、ブラジルの音楽家達は世界の音楽と接触を持つようになりました。1945年頃アメリカではビバップが発生し、その40年代末にはアメリカ内外に広まり続いて従来のジャズよりも、もっと知的で高度に計算されたクールジャズ（テナーサックス奏者スタンゲッツ）等が誕生し、いわゆるモダンジャズの創成期となり、この影響はただちにブラジルの音楽家達にも現われ、演奏面だけでなく作曲面にも趣きをおこうとする運動として現われ、貧弱なハーモニーの欠点を正して音楽の3要素（メロディー、リズム、ハーモニー）を取り入れた改革的なやり方を作品にみせていたのが、当時のアストラック・アントニオカルロスジョビン等です。また、彼等は当時のピアニストであるジョニーアルフをボサ・ノヴァの生みの親と認めています。一般大衆がボサ・ノヴァに対面したのは1958年で当時カルロスジョビンの有名な曲「ディサヒナード」が生まれました。ボサ・ノヴァが世界の音楽として普及したのは、アメリカのジャズメンに負うところが大きく、中でも前記のスタンゲッツの「ディサフィナード」「ジャズ・サンバ」「サンバトリステ」等は大ヒットとなり、この年のグラミー賞のベストジャズコンボ賞に選ばれ、ゲッツおよびギターのキャーリーバードはアメリカにボサ・ノヴァの基礎を築きました。
この様に、サンバ、ボサ・ノヴァは黒人の原始のリズムから白人のダンスミュージックとなり、世界に知られる様になって、世界の音楽、ことにアメリカのジャズの媒体を経て発展をした事に間違いありません。今後、現代のサンバであるボサ・ノヴァは、ジャズ的なセンスと共に世界の音楽の根幹となると思います。マンボやロックと同様に単なる流行リズムではなく、ポピュラーミュージックの新典としていつまでも継承され進展を遂げてもらいたいものです。